

JTB 広報室 2026 年 10 月 9 日

JTB グループと WWF ジャパンが「生物多様性推進」に向けた協働を開始 ～「自然体験と生物多様性の保全を両立するモデルケースの構築」を目指す～

株式会社 JTB(東京都港区、代表取締役 社長執行役員:青海友)と公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(東京都港区、会長:末吉竹二郎、以下 WWF ジャパン)は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、「生物多様性」の推進に向けた協働を 2026 年10月より開始いたします。



©WWF Japan

環境保全と自然体験を両立する「保全型エコツーリズム」候補地、沖縄県西表島の浦内川。
日本最大のマングローブ林を河口に有し、流域は世界自然遺産に登録されている。

■協働に至った背景

観光は豊かな自然や生物多様性という自然資本に支えられています。しかし、従来の観光による利用が自然環境への負荷となるケースも報告されており、これからの観光業においては、自然の価値を維持・回復する仕組みづくりが求められています。

世界的に生物多様性の損失が深刻化するなか、観光においても自然を「楽しむ・利用する」だけでなく、その価値を理解し、保全へとつなげる取り組みの重要性が高まっています。

JTB グループは観光事業に関する豊富な知見やネットワークを、WWF ジャパンは生物多様性保全に関する専門的な知見を有しています。この度の連携では、両者それぞれの強みを生かし、自然体験と生物多様性保全の両立に加え、保全活動の担い手である地域コミュニティへの適切な利益還元を実現する「ツーリズムにおける自然体験と生物多様性の保全を両立するモデルケースの構築」を目指し、このたび協働を開始します。

■主な協働活動

1. 象徴的なエコツーリズムの基盤構築：世界自然遺産やラムサール登録湿地など、希少な生態系が残る地域(西表島等)を対象に、環境保全と自然体験を両立する「保全型エコツーリズム」を企業向け研修ツアー等として造成する。
2. 方針・行動目標への生物多様性配慮の統合：JTB グループのお客様向けの取り組みにおいて、旅先の自然環境や生物多様性への配慮をより高めていくため、WWF ジャパンの助言・監修のもと、観光における留意事項を整理し、お客様にわかりやすくご案内できるよう取り組む。
3. 対話と発信による社会への働きかけ：両者の知見を持ち寄り、観光地における生物多様性保全の重要性を広く伝えるために、協働セミナーや啓発イベントを実施する。

JTB グループと WWF ジャパンは、今後さらに多くの観光地域やパートナー企業と協働しながら、生物多様性の保全と自然資本の持続可能な利用を両立するモデルを確立し、豊かな自然と交流の恵みを次世代へつないでいきます。

■JTB のサステナビリティについて

JTB グループは、交流創造事業を通して、交流する人が増えるほど地域や人権、環境の課題が解決し、さらなる社会の発展につながる持続可能なツーリズムをリードしていきます。

URL:<https://www.jtbcorp.jp/jp/sustainability/>

■WWFについて

WWF は 100 カ国以上で活動している環境保全団体で、1961 年に設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、失われつつある生物多様性の豊かさの回復や、地球温暖化防止などの活動を行なっています。

URL:<https://www.wwf.or.jp>

■報道関係の方からのお問合せ先

JTB 広報室代表メールアドレス jtb0074_all@jtb.com

WWFジャパン自然保護室 広報メールアドレス(担当:山崎) press@wwf.or.jp